

秘密保護法案を
必ず廃案に！

泉北教育

NO.1948 2013.12.2
発行 泉北教職員組合
〒594-0071 和泉市府中町6-12-2
0725-41-1953 Fax0725-44-6570
E-mail senboku@gf6.so-net.ne.jp

廃案しかない秘密保護法案

強行採決は許されないと抗議に集まった人たち 11月26日、官邸前



秘密保護法案の仕組みは、政府が持つ膨大な情報の中から、政府が「特定秘密」を指定し、「秘密を漏らす人」「秘密を知ろうとした人」などを厳罰にするというものです。その矛先が公務員だけでなく、すべての国民に向けられています。

何が秘密かも秘密

何が秘密かも秘密です。“原発事故が心配だ”と、写真を撮ってブログにのせた。“米軍基地被害が深刻だ”と写真を撮ってブログにのせた。ある日突然、警察がやってきて逮捕になりかねません。国民のあらゆる自由な活動が圧殺されます。

「情報を公開しろ」の一言で犯罪

「秘密を漏らす人」「秘密を知ろうとした人」だけでなく、「共謀」した人、「教唆」—そそのかした人、「扇動」—あおった人も処罰の対象とされます。ある集会で「情報を公開しろ」とマイクで訴えたら、その一言が犯罪とされかねません。これでは新しい治安維持法そのものといわざるをえません。

何で裁かれているのかわからないまま重罪

秘密保護法違反で逮捕されたらどうなるのでしょうか。裁判の過程でも「特定秘密」は開示されません。弁護士はどう弁護したらいいかわかりません。ひとたび「被告人」とされたら、自らを防護する手段が存在しません。何によって裁かれているのかもわからないまま、重罪

にされます。まさに暗黒裁判です。

戦争する国へ 国民の目と耳と口をふさぐ

政府は、「安全保障のためなら、秘密にして当たり前」といわんばかりです。しかし、安全保障にかかわる問題こそ、可能な限り、最大限、国民に明らかにされなければなりません。それを国民に隠し、ウソの情報で欺いた結果が、戦前の侵略戦争の誤りにつながりました。「米軍とともに海外で戦争をする国」をつくる、そのために国民の目と耳と口をふさぎ、情報を統制し、世論を誘導する。いつか来た道の再現を許してはなりません。

「修正」でなく廃案に

日本弁護士連合会、日本ペンクラブ、テレビのキャスター、出版人、演劇人、憲法・メディア法・歴史学者、外国特派員協会、国際ペンクラブなどなど、これまでにない広範な人々が反対の声をあげ立ち上がっています。

この世論の広がりを恐れ、政府・与党は、一部、自民党の補完勢力である「野党」を抱き込んで法案を「修正」し強行可決させました。「修正」は法案の本質を少しも変えるものではありません。日本国憲法の国民主権、基本的人権、平和主義に反する違憲立法である秘密保護法案は「修正」ではなく廃案に—この声で安倍政権を包囲し、この希代の悪法を廃案に追い込んでいきましょう。

審議すればするほど大臣答弁はボロが出る。反対世論はどんどん強まる。そんな中で、秘密保護法案が11月26日夜、衆議院本会議で強行採決されました。国会内では悪法推進勢力は多数ですが、国民の中では反対の声が急速に広がっています。たたかいはこれからです。国民の圧倒的多数の反対の声で安倍政権を包囲して廃案に追い込んでいきましょう。

明らかに
なつた
憲法違反
の中身

あなたも泉北教職員組合へ